

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：家庭児童福祉費

事業名 オレンジリボン・キャンペーン事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

子ども・女性部 子ども家庭課 児童養護第一係 電話番号：058-272-1111(内3563)

E-mail : c11217@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 2,500 千円 (前年度予算額： 3,000 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	3,000	1,500	0	0	0	0	0	0
要求額	2,500	1,250	0	0	0	0	0	0
決定額								

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

令和5年度の子ども相談センターによる児童虐待相談対応件数は2,725件で過去最多となった。家庭や学校、地域など社会全般にわたり児童虐待問題に対する深い関心と理解を醸成するため、「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン月間」である11月を中心にして、児童虐待防止のための広報・啓発活動を実施する。

(2) 事業内容

1. 児童虐待防止啓発イベントの実施

児童虐待防止講演会等の開催や、民間団体と連携した地域・親子に向けて啓発ができるイベントの開催等により、児童虐待防止と問題に対する理解を呼び掛ける。

2. 児童虐待防止啓発資材の製作

家庭や学校、地域など社会全般にわたり児童虐待問題に対する深い関心と理解を醸成するため、街頭啓発活動、協力団体、学校等において幅広く配布・活用できる啓発資材を作成する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県1/2 国庫1/2

(児童虐待防止等対策総合支援事業費補助金)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	2,365	① 児童虐待防止講演会等 ② 啓発活動・資材作成 (県内小中高校生への相談窓口広報 等)
報償費	50	講師報償費
旅費	35	講師旅費
役務費	50	
合計	2,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

国においては11月を「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン月間」と位置付け、集中的な広報啓発活動を行っており、各地方自治体においても同様のキャンペーン事業を実施している。

(2) 後年度の財政負担

毎年度、同様の事業を継続し、啓発活動を広めていく必要がある。

(3) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県 委託先：広報啓発事業を実施する事業者

児童福祉の実現、及び児童虐待防止は県の責務であり、そのために必要不可欠な広報啓発活動を行う。相談通告先や児童虐待防止についての知識等の広報啓発を専門性と創造性を有する事業者に委託して実施する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

児童虐待防止を目指す県民運動である「ぎふオレンジリボン運動」の趣旨について、幅広い県民が理解し、地域での「虐待を未然に防止できる社会づくり」への機運を高める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H24)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R11)	達成率
児童虐待防止講演会参加者数 700人/年 以上		734人	700人	700人	700人	105%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	(1) 児童虐待防止啓発イベントの実施 YouTubeを活用し11月に清流の国ぎふオレンジリボン児童虐待防止講演会を開催するとともに、各子ども相談センターにおいて街頭啓発を実施。 (2) 児童虐待防止啓発資材の作成 啓発用紙袋等を作成し各圏域にて配布。県内全小・中・高生へ啓発カードを配布し、児童相談所虐待対応ダイヤルを周知。
令和5年度	(1) 児童虐待防止啓発イベントの実施 YouTubeを活用し11月に清流の国ぎふオレンジリボン児童虐待防止講演会を開催するとともに、各子ども相談センターにおいて街頭啓発を実施。 (2) 児童虐待防止啓発資材の作成 啓発用紙袋等を作成し各圏域にて配布。県内全小・中・高生へ啓発カードを配布し、児童相談所虐待対応ダイヤルを周知。
令和6年度	(1) 児童虐待防止啓発イベントの実施 YouTubeを活用し11月に清流の国ぎふオレンジリボン児童虐待防止講演会を開催するとともに、各子ども相談センターにおいて街頭啓発を実施。 (2) 児童虐待防止啓発資材の作成 啓発用紙袋等を作成し各圏域にて配布。県内全小・中・高生へ啓発カードを配布し、児童相談所虐待対応ダイヤルを周知。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)

3

児童虐待に関する社会的な関心は高く、重篤な事例はマスコミ報道されることが多い。児童虐待相談対応件数は全国的にも、また県においても年々増加していることから、虐待防止を呼びかける「オレンジリボン運動」を浸透させる必要性は高い。

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価)

2

児童虐待に関する近隣知人からの通報件数は増えており、意識は高まっていると見られる。また、親子に対する周知活動により、イメージの向上につながっている。

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)

2

事業の見直しを行い、啓発効果の高い事業へ集約を行うことで経費の節減を図っている(H24年度39,986千円→R5年度3,000千円)。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

虐待の通報についての意識は高まっていると思われるが、地域社会の力により未然に虐待を防止することへの啓発がさらに必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

若年層や子育て世代に向け、オレンジリボン運動のポジティブなメッセージ（虐待を未然に防ぐために、自分たちができること等）を伝えていくための広報啓発を実施していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者（団体）	(理由)
補助事業の概要	(目的) (内容)
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） (内容) (理由)
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 (理由)

(事業目標)

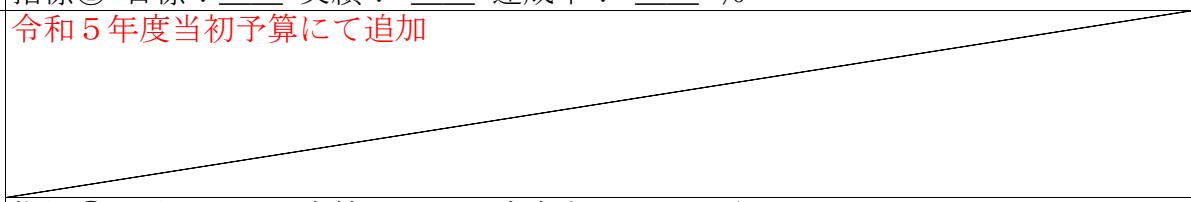
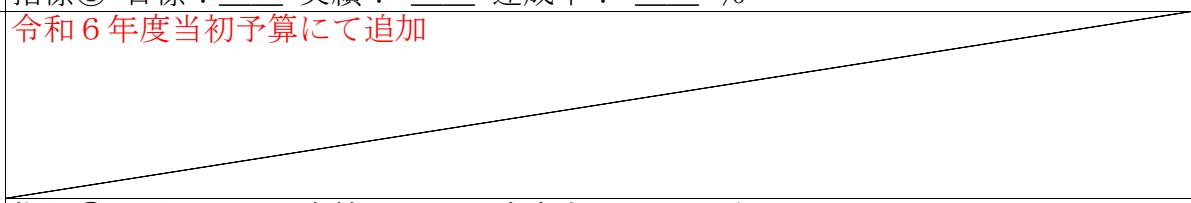
- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R元年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none">・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> 
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> 
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり） 2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成） 1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%） 0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか